



# やよい図書館



## フレーズ&センテンス

「人は、自分が自分を思うほど、きみを思ってるわけじゃないぜ。」

若い人への叢書『15歳の寺子屋』から10人の著名人を選び、まとめた本です。「若い人へのメッセージは、若い心を持つ人にとっても、有用であるに違いありません」とあるように、年齢を問わず瑞々しいメッセージを受け取ることができます。いくつになっても人は成長していますし、長寿になったことでまだ学ぶこともたくさんあります。上記のセンテンスは、吉本隆明さんが若い頃先生に言われてショックを受けた言葉だそうです。いつもの読書に加えて、時折こんな本もいかがでしょうか。

『人生を考えるのに遅すぎるということはない』 安藤忠雄・三国清三・金田一秀穂ほか著 講談社 (中井)

## かける ×本精読

このコーナーでは、「誰か×誰か」や「誰か×何か」の意外な組み合わせから生まれた「×本」を紹介します。

俵万智×一青窈『短歌の作り方、教えてください』 角川学芸出版

歌人俵万智と歌手一青窈のマンツーマンでの短歌実作レッスンが見られるこの1冊は、月刊短歌総合誌『短歌』に連載された、二人の往復メール書簡を中心に構成されています。はじめは五七五七七という短歌の定型に苦戦していた一青窈でしたが、俵万智とのやり取りの中で次第に定型にも慣れ、自分らしく歌を詠んでいきます。短歌初心者の方にも読みやすく、創作意欲をかきたてられる内容です。

(青山)



## Cinema library 第11回 ショコラ

2月14日はバレンタインデー！ というわけで、今回はチョコレートが登場する映画、その名も「ショコラ」をご紹介します。

舞台となるのは、フランスのはずれの小さな村。人々が伝統と戒律を重んじるこの村に、風とともにやって来たのはよそ者の母娘です。町から町へと放浪を続ける彼女たちがこの村で始めたのは、小さなショコラトリー（チョコレート専門店）でした。彼女が作る様々なチョコレートはしだいに村人たちを虜にし、彼らの固まつた心までも溶かしていきます。しかし、古い因習を何よりも重んじる神父（映画では村長の伯爵）はそれが許せず…。

伝統やしきたりは大切なものです。それにとらわれすぎてしまうと、時に身動きが取れず愛や喜びを見失ってしまうこともあります。チョコレートという小さなきっかけで、人々が笑顔と幸福を取り戻してゆく様子がとても印象的な物語です。そして何より、映画も、小説も、登場するチョコレートのおいしそうなこと！ 映画と小説、どちらが先でも楽しめますが、その時はどうかチョコレートの用意をお忘れなく。

・『ショコラ』 ジョアン・ハリス/著 角川書店

・『ル・コルドン・ブルーショコラノート 魅惑のチョコレートを召し上がり!』 ル・コルドン・ブルー東京校/編

文化局出版



次回は『長いお別れ』です。お楽しみに！

(丸山)

## Vol.5 親子で「おうちえほん」のススメ

NPO法人「絵本で子育て」センター絵本講師 のぐち りえ



### ★「おはなし会」に行った日も「おうちえほん」していますか？★

「今日は図書館のおはなし会で絵本を読んでもらったから～」とか、「うちの子は保育園（幼稚園）で先生に毎日絵本を読んでもらっているから～」という理由で、うちでは絵本を読む必要ないわ♪なんて思っているママさん、いませんか？ 実は、お話し会や保育園などでの“集団での読み聞かせ”と、おうちでパパやママ、おじいちゃんやおばあちゃんに読んでもらう“おうちえほん”は、全く違う性質を持ち合わせているんです。

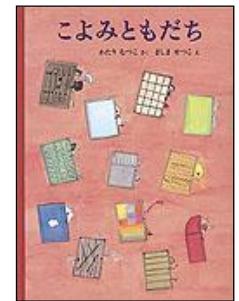
〈この本読んで～〉と子どもが本を選べる、〈もう一回読んで～〉と同じ本を繰り返し読んでもらえる、〈ちょっと待って！ココをもっとよく見せて！〉と好きなページをじっくり見せてもらえる、今挙げたのはほんの一部ですが、“おうちえほん”だからできること。そう、おはなし会は、主催者のペースで進むけれど、“おうちえほん”は、子どものペースで進む！ 実はこれ、とっても大切なことです。お話し会に比べて、より積極的にお話の中に入り込める“おうちえほん”は、「読み聞かせ」ではなく親子で絵本を「読み合う」時間。赤ちゃんだって、立派に自己主張しながら絵本を楽しむんですよ。一番リラックスできるおうちで、大好きな人の優しい声と温もりを感じ、そして能動的にお話を楽しみながら育った子どもは、やがて好きなジャンルの本を自分で選び、その本から様々なエッセンスを受け取っていくことでしょう。

### ★今月の絵本★ 「おうちえほん」で読みたい絵本

#### 『こよみともだち』

わたりむつこ /作 ましませつこ/絵 (福音館書店)

これは、おはなし会では読めないかなあ。巻末にある12の扉を開くと、1月さんから12月さんの可愛らしい顔が見られる。やっぱりひとつひとつ開けたいじゃない！ おうちの本棚に置いて、一年を、日本の四季を、季節の行事をお子さんと感じてね♪



#### 『しきぶとんさん かけぶとんさん まくらさん』

高野文子/作・絵 (福音館書店)

この本は、きっとお子さんの強~い味方になってくれますよ！ まかせろ、まかせろ、おれにまかせろ、と呪文のようにこのことばを繰り返す布団たち。夜寝る前のおまじないに、または風邪などをひいてお布団で過ごすことになってしまったお子さんにも♥



#### 『バムとケロのさむいあさ』

島田ゆかり/作・絵 (文溪堂)

『バムとケロシリーズ』から冬のお話を。この本、絵をじっくり見れば見るほどに気付きが！ 文字のことばには無い“絵のことば”的可笑しみを是非お楽しみあれ♪ 色々とやらかしてしまうケロちゃんを我が子のように思うママも多いのよ。

